

5/31
2008 (土)

静かな伝説の山
女性的な山
乳色のもやがはれると
山稜のヒメコマツのかげが
山の男を呼んでいます
谷間のせせらぎに
残雪の冷たさと
若葉の香りが流れてきました
山の乙女の髪に
一輪のシャクナゲ
こよなく自然を愛する
君を あなたを
山は待っています

会津の秘峰

志津倉山開き

主な日程

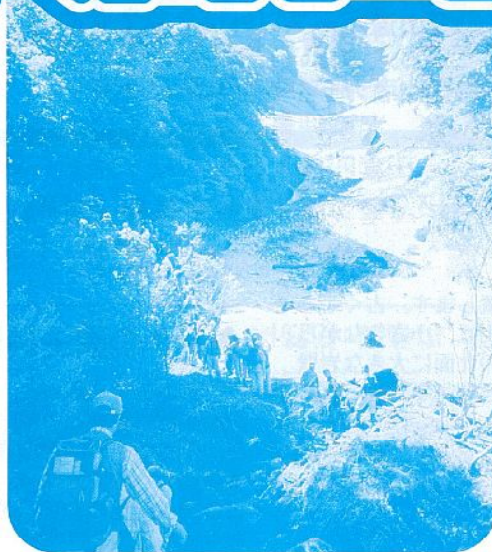
- ▲登山安全祈願 午前8:20
- ▲記念バッジ(先着250名様に進呈) 午前8:20
- ▲山頂抽選会 正午
- ▲登山道入口売店(※地元の方々が出店)

※天候不良の場合は中止になることもあります。

バス時刻表

▲行き	
会津宮下駅発	午前7:40
志津倉山登山道入口着	8:10
▼帰り	
志津倉山登山道入口発	午後2:30
会津宮下駅着	3:00

※バス利用料金は無料です。
駐車場が狭いのでなるべくバスをご利用下さい



「御神楽岳山開き」

6月1日(日)

志津倉山開きの翌日は金山町の「御神楽岳山開き」が行われます。これまでは同じ日に山開きを行っていましたが、多くの方々に奥会津の山を楽しんでいただくよう日程を設定しました。ぜひ奥会津「志津倉山」「御神楽岳」の初夏の登山をお楽しみ下さい。お泊りは三島の宿をどうぞご利用下さい。

■宿泊旅館御案内

《宮下温泉》

栄光館 ☎0241(52)2636

ふるさと荘 ☎0241(52)2049

《三島の宿》

糸屋旅館 ☎0241(52)2008

民宿かねこ ☎0241(52)3778

森の校舎カタクリ ☎0241(48)5577

《早戸温泉》

竹のや旅館 ☎0241(52)3620

つるの湯 ☎0241(52)3324

6/7(土)・8(日)

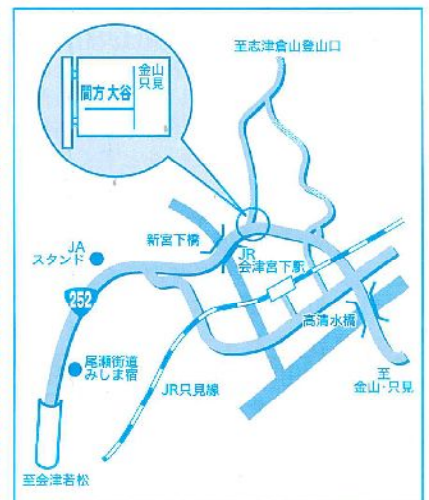
第22回

ふるさと会津 工人まつり開催

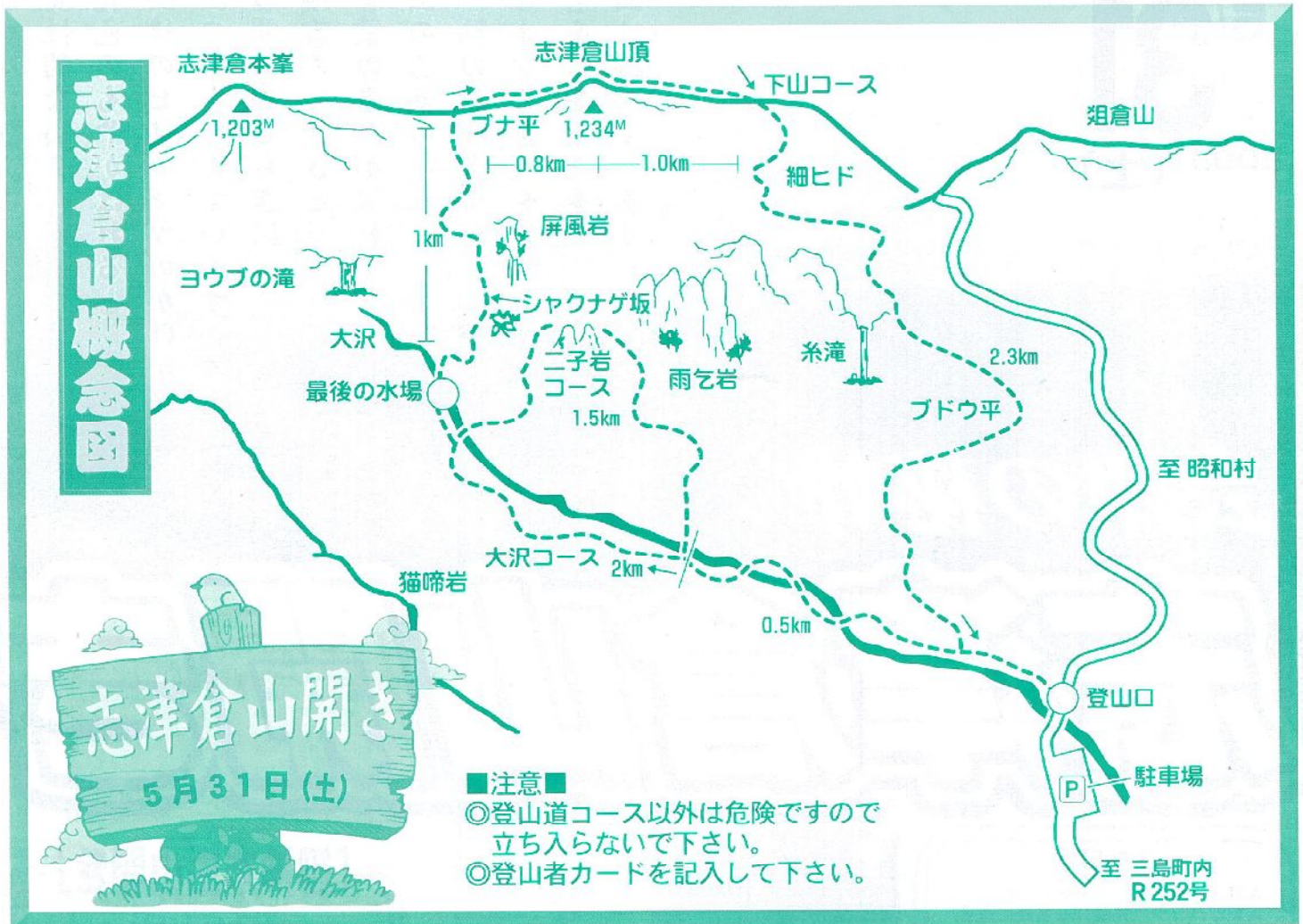
全国から約150人の工人が出店!!
飲食店等の模擬店多数出店

会津宮下駅より送迎バス運行

●お問合せ:三島町生活工芸館
TEL 0241-48-5502



- 主催/三島町・三島町観光協会・志津倉山の会・三島町教育委員会・三島町体育協会
- 協賛/(株)ロータス・日本山岳会福島県支部
- 問い合わせ/三島町観光協会 TEL 0241-48-5000



◆志津倉山

志津倉山は三島町・昭和村・柳津町の三境に位置します。古くから霊山としてあがめられ、多くの伝説が残るこの山は、小さいながら変化に富んでいて登山者を魅了します。山頂部の北面に大きな岩壁が並び立ち、原生林のブナの美しさが、深山の雰囲気を感じさせてくれます。特に真っ赤に染まる秋は絶景です。

◆雨と雪に磨かれた雨乞岩の大きなスラブ(一枚岩)

大沢沿いを歩き出すとすぐに、安全を祈願して立てられた「志津倉の鐘」があります。登山道は沢沿いにつけられていて、ゆるやかな登りになっています。下山コースとの分岐を過ぎるとそのまま沢沿いに進みます。小沢沿いにつけられた、湿地帯で草の茂った細い道を行くと、雨乞岩・二子岩方面に右折する二子岩コースの分岐に出ます。二子山コースに行くときに雨乞岩の巨大なスラブが望めます。その昔干ばつに苦しむ農民たちが、この岩に集まり「アンメータンメー、タンサクヤーイ水たんもれ龍宮やい」と祈ると、たちまち雨が降って来たという伝説があります。スラブを滑り落ちる幾条もの流れは、まるで白糸を思わせる光景です。この岩壁をバックにした紅葉の見事な景観は形容しようがありません。

◆左に猫啼岩、右に屏風岩、シャクナゲ坂を三本松へ

「山頂まであと2.5キロ」とある道標からは、山腹をトラバース気味に岩場を通過します。辺りはミズナラなどの木々が茂り、足元はぬかるんでいて滑りやすくなっています。大沢の向こうの尾根には妖怪カシャ猫伝説が残る、猫啼岩が望めます。やがて道は下りになり、大沢コースに合流します。右岸を行き、すぐに細い沢を対岸に渡ると、ここが大沢と別れる「最後の水場」です。ここから急なシャクナゲ坂の登りになります。岩混じりのヤセ尾根を登っていくと屏風

岩に出ます。足元がすっぱりと切れ落ち、雨の後などは滑りやすくなっています。

◆ブナの原生林を抜け志津倉山頂に立つ

ブナ平の辺りに来ると、ややゆるやかな登りになり、あたりはブナの原生林に覆われます。しっかりとした登山道は広葉樹林に包まれすぐに目指す志津倉山頂にたどりつきます。北西に御神楽岳、北に飯豊連峰、東に磐梯山、南に那須連峰、七ヶ岳、田代山、帝釈山などの山々が望めます。登りながら見上げた屏風岩は山頂の北側にあたり、地形図では本峰の北側に連なる岩壁に屏風岩の名が入っていますが、登って来たとき見たものとは違いますので間違わないように。また、山頂のことを志津倉岳と表示する本もあるので注意して下さい。

◆急な尾根道を一気に登山口へ

下山路は尾根づたいに西に向かいます。大辺峠へ降りる道との分岐で、細ヒドに入り尾根を下ります。傾斜はどんどん急になり、途中にはロープやクサリ、ハシゴが整備されています。特にハシゴは鉄製でできていて滑りやすいので注意しましょう。糸滝を過ぎるとようやく道がゆるやかになりブナ林に出ます。道標に従って沢を渡り支尾根の中腹を下がっていくと、左右に沢音が聞こえてきます。そのまま台地状の支尾根を下って行くと、ミズバショウが生える往路との分岐に出ます。後はすぐ登山口です。

